

桐生繊維業界の実態

昭和61年1月～12月

桐生市繊維振興協会

昭和61年12月末現在

桐生繊維業界の概況

1. 調査対象団体数	21団体（桐生商工会議所繊維部会除く）
2. 産地収入	
	（昨年比較）
(1) 生産高	391億1,987万円（96.4%）
(2) 加工収入高	236億5,878万円（95.2%）
(3) 販売高	225億6,317万円（85.8%）
合計	853億4,182万円（93.0%）
3. 総組合員数	1,515事業所
4. 総従業員数（家族従業員含）	9,550人
5. 一事業所当り従業員数	6.3人
6. 一事業所当り生産販売加工高	5,633万円
7. その他参考	
	（比較）
54年産地収入	1,078億1,166万円（100）
55年	1,170億6,380万円（109）
56年	1,110億8,757万円（103）
57年	1,083億3,093万円（101）
58年	1,023億6,34万円（95）
59年	976億1,960万円（91）
60年	917億1,760万円（85）

1. 組合員数及び従業員数

所属団体	組合員数 事業所	従業員数					従業員 平均年齢 才
		従業員		家族従業員		計	
		男 人	女 人	男 人	女 人		
桐生内地織物(協)	310	730	1,164	104	117	2,115	50
桐生織物(協)	625	370	390	572	850	2,182	49
桐生織物商業(協)	8	32	19	0	0	51	43
桐生織物産地元売(協)	23	85	39	6	15	145	45
両毛輸出織物整染(工)	27	452	249	40	27	768	50
桐生染色(協)	37	219	33	24	18	294	37
桐生繊維製品(協)	52	205	725	35	40	1,005	29
桐生服地(協)	12	117	157	8	5	287	48
桐生糸商組合	23	28	10	4	3	45	—
東日本編レース(工)	40	74	73	41	36	224	—
桐生撚糸(工)	58	17	42	58	53	170	48
桐生婦人子供服製造(協)	9	19	115	12	11	157	28
両毛輸出スカーフ(協)	10	6	8	10	8	32	—
桐生織物整経(協)	89	7	55	105	103	270	56
桐生意匠(協)	44	23	0	8	16	47	48
桐生紋紙(協)	35	27	4	43	29	103	—
東毛ジャガード刺繍(協)	20	32	41	26	31	130	35
桐生刺繍商工業(協)	65	220	415	120	128	883	42
桐生金銀糸(協)	14	36	9	0	7	52	42
桐生織物買継商友会	26	10	2	27	26	65	45
群馬県綿スフ織物(工)	108	192	244	35	54	525	42
計	1,515	2,901	3,794	1,278	1,577	9,550	—

注(1) 桐生織物協の組合員数の数字は、桐生服地協の12事業所と、群馬県綿・スフ織物(工)の108事業所、計120事業所を含む。

(2) 桐生糸商組合の場合、組合員23社中6社の計です。

2. 生産、加工高及び受注（出荷）先区分（工業部門）

単位 万円

所属団体	生産高	加工高	計	昨年比較	県内	県外
桐生内地織物(協)	776,095	47,549	823,644	88	0	100
桐生織物(協)	1,647,625	—	1,647,625	98	0	100
両毛輸出織物整染(工)	—	450,890	450,890	87	30	70
桐生染色(協)	—	161,968	161,968	99	61	39
桐生繊維製品(協)	148,200	908,000	1,056,200	93	10	90
桐生服地(協)	412,800	—	412,800	96	0	100
東日本編レース(工)	79,569	—	79,569	—	0	100
桐生撚糸(工)	—	31,695	31,695	96	80	20
桐生婦人子供服製造(協)	56,490	113,735	170,225	97	0	100
桐生織物整経(協)	—	52,041	52,041	108	90	10
桐生意匠(協)	31,679	—	31,679	109	75	25
桐生紋紙(協)	50,549	—	50,549	113	86	14
東毛ジャカード刺繍(協)	91,471	—	91,471	104	3	97
桐生刺繍商工業(協)	700,000	600,000	1,300,000	90	0	100
両毛輸出スカーフ(協)	45,907	—	45,907	84	0	100
群馬県綿スフ織物(工)	284,402	—	284,402	91	0	100
計	3,911,987	2,365,878	6,277,865	—	27	73

注：桐生服地協の数字は他の組合と重複するため計から除く。

3. 販売高及び出荷先区分（商業部門）

単位 万円

所属団体	販売高	昨 年 比 較	桐生市内	県内	県外
桐生織物産地元売(協)	699,678	88	0	0	100
桐生織物商業(協)	585,635	95	0	0	100
桐生系商組合	540,004	—	79	3	18
桐生金銀系(協)	200,000	100	90	3	7
桐生織物買継商友会	231,000	149	0	0	100
計	2,256,317	—	34	1	65

注：桐生系商組合は組合員24社中8社分の数字です。

4. 内需向，輸出向区分

単位 万円

所属団体	内 需 向		輸 出 向		計
	金 額	割合	金 額	割合	
桐生織物(協)	1,018,685	62	628,940	38	1,647,625
桐生織物商業(協)	76,133	13	509,502	87	585,635
両毛輸出織物整染(工)	328,761	73	122,129	27	450,890
桐生染色(協)	100,468	62	61,500	38	161,968
桐生繊維製品(協)	971,700	92	84,500	8	1,056,200
桐生刺繍商工業(協)	1,290,000	99	10,000	1	1,300,000
桐生金銀系(協)	80,000	40	120,000	60	200,000
両毛輸出スカーフ(協)	3,000	7	42,907	93	45,907
桐生織物整経(協)	32,521	62	19,520	38	52,041
桐生意匠(協)	25,923	82	5,756	18	31,679
桐生紋紙(協)	40,668	80	9,881	20	50,549
群馬県綿スフ織物(工)	274,700	97	9,702	3	284,402
計	4,242,559	72	1,624,337	28	5,866,896

5. 各団体の取扱品目

団体名	品 目				
	割 合	割 合	割 合	割 合	割 合
桐 生 織 物(協)	合織織物	人絹織物	絹織物	ベンベルグ織物	その他
	51	23	10	9	7
桐 生 内 地 織 物(協)	帯 地	広 巾	着 尺	服飾工芸	
	64	22	8	6	
桐 生 織 物 商 業(協)	化 合 織 物	二次製品			
	93	7			
桐 生 織 物 産 地 元 売(協)	帯 地	着 尺	服飾工芸	二次製品	その他
	56	26	5	5	8
両 毛 輸 出 織 物 整 染(工)	ニ ッ ト	合 織	人 絹	絹	
	50	46	3	1	
桐 生 染 色(協)	合 織	レーヨン	綿 ウール等	絹	
	40	33	16	11	
桐 生 織 維 製 品(協)	ブラウス	ワンピース	コ ー ト	その他	
	75	7	5	13	
桐 生 服 地(協)	婦人服地	インテリア 資 材			
	90	10			
桐 生 糸 商 組 合	化 合 織	生 糸	綿・スフ	その他	
	66	18	7	9	
東 日 本 編 レ ー ス(工)	カーテン レ ー ス	衣料レース	資 材 そ の 他		
	55	30	15		

注：桐生糸商組合は、組合員23社中6社分の数字です。

桐生燃糸(工)	人絹燃糸	絹燃糸	合織燃糸		
	39	31	30		
桐生婦人子供服製造(協)	婦人 ブラウス	スカート	子供服		
	97	2	1		
両毛輸出スカーフ(協)	スカーフ				
	100				
桐生織物整経(協)	整経				
	100				
桐生意匠(協)	帯	洋反	夜具	インテリア	その他
	21	16	14	11	38
桐生紋紙(協)	紋紙	エンドレス			
	71	29			
東毛ジャカード刺繍(協)	ワッペン	トレーナー	Tシャツ	その他	
	45	24	13	18	
桐生刺繍商工業(協)	婚礼関係	婚礼加工	ブラウス 加工	ハンカチーフ	雑貨
	60	27	5	4	4
桐生金銀糸(協)	金銀糸	関連製品			
	80	20			
桐生織物買継商友会	帯	二次製品	着尺	広巾・服地 その他	
	64	30	2	4	
群馬県綿スフ織物(工)	衛生材料	硝子 繊維織物	婦人服地等		
	66	24	10		

6. 生産加工部門の現有設備状況

所属団体	設備名	数量	所属団体	設備名	数量
桐生内地織物(協)	広巾織機	205	桐生撚糸(工)	イタリー式撚糸機	174
	並巾 "	1,494		合撚式 "	64
	小巾 "	302		アップワインダー	9
	レピア "	129		長谷式	24
	計	2,130		計	268
桐生織物(協)	超自動織機スルーザー	86	桐生婦人子供服製造(協)	本縫ミシン	151
	" レピア	553		ロックミシン	28
	自動及び普通織機	2,917		特殊ミシン	11
	計	3,556		その他	85
両毛輸出織物整染(工)	精練漂白機	98	桐生織物整経(協)	計	275
	乾燥機	143		整経機	113
	染色機	142		糸繰機	6,541
	仕上機	85		計	6,654
	計	468		拡大機	40
桐生染色(協)	染色機(常圧噴射式)	135	桐生意匠(協)	コピー機	12
	" (高圧 ")	42		コンピューター	9
	" (汎 ")	47		パノチング	8
	チーズ及チーク	67		計	69
	計	291		ピアノマシン	101
桐生繊維製品(協)	縫製ミシン	1,300	桐生紋紙(協)	裁断機	38
	プレス	85		編機	52
	裁断機	80		ワンパンチ	31
	計	1,465		その他	54
桐生服地(協)	超自動織機	65	桐生刺繍商工業(協)	計	276
	自動 "	42		横振ミシン	2,000
	普通 "	177		ジャカードミシン	4,100
	計	284		計	6,100
東日本編レース工	ラッセル機	251	群馬県綿スフ織物(工)	広巾普通織機	205
東毛ジャカード刺繍(協)	ジャカードミシン	77		小巾 "	234
				超自動レピア	46
				ガラス繊維織機(規制外)レピア4台含む	178
計	663				

7. 最近の推移（61年10月～62年2月）

所属団体	項	受注，引合の状況				販売（加工）単価の状況			
		増	変わらず	下降	前年対比	上昇	変わらず	下降	前年対比
桐生内地織物(協)			○		100		○		100
桐生織物(協)				○	60			○	96
桐生織物商業(協)				○	97			○	95
桐生織物産地元売(協)				○	93			○	88
両毛輸出織物整染(工)			○		100			○	98
桐生染色(協)				○	99		○		100
桐生繊維製品(協)			○		100		○		100
桐生服地(協)			○		100		○		100
桐生糸商組合				○	—			○	—
東日本編レース(工)			○		100		○		100
桐生撚糸(工)				○	87			○	89
桐生婦人子供服製造(協)				○	96			○	96
両毛輸出スカーフ(協)				○	90			○	85
桐生織物整経(協)			○		100		○		100
桐生意匠(協)	○				108		○		100
桐生紋紙(協)	○				113		○		100
東毛ジャカード刺繍(協)			○		100		○		100
桐生刺繍商工業(協)	○				105		○		100
桐生金銀糸(協)				○	70			○	70
桐生織物買継商友会	○				149	○			110
群馬県綿スフ織物(工)	○				126			○	90
計		5	7	9	—	1	10	10	—

1. 桐生内地織物協同組合

○ 商品、消費ニーズの変化について

昭和61年は「ニューきもの」が出てきた画期的な年となった。いわゆる大正ロマン調の配色を基本に取り入れたもので、雑誌にもてはやされ、夏頃から本格的に動き出した。

(帯地) このニューきものに合わせた小巾の帯・ニュー細帯(巾は4寸3分のものが中心)は桐生が得意とするところであり、一部業者は生産に追われている。丁数が多く、織尺が長いいため生産数量に限りがあり、生産者価格の維持により影響をあたえている。

つれて他の品種の袋帯、なごや帯、京袋帯、小袋帯にもニューきもの調子が波及している。

京袋帯にはトータル販売が多い。

(着尺) 着尺においても色調についてはニューきもの影響がみられる。

あたらしい現象でないが、ただ織ったものでなく、織に後加工やしぼり等を加えた「染織併用」のものが中心である。

一部の小売店、卸商からお召の復活が望まれており、今後に期待がかけられる。

(服飾工芸)

兵児帯、裏地は減少したが、半えり(大正ロマン調のもので、ポリエステルもの)やリボン、小紋のタビなど新しい用途の開発も進んでいる。そのほか仕立物、和装小物と多種生産されているがやはり良いもので値頃品が売れている。

○ 状況、事業報告

和装を主体とする当業界はニュー細帯に見るような明るい面もあったが、一般的にとらえると依然として需要の低迷の中であって、年間生産高は83億円と前年比約1割の減少をよぎなくした。

当組合としては、この状況から立直るべく前向きな事業を推進した。

① 求評会をはじめとして、需要開拓をめざす移動宣伝販売会、新販路開拓事

業、各種宣伝会を積極的に展開した。

- ② 共同販売事業（商事部事業）及び事業推進委員会による販売事業を実施し、両部門とも着実な伸張を示している。

- ③ 伝統的工芸品「桐生織」研修事業

伝統的工芸士により企業の若手経営者、後継者に対し、多彩なカリキュラムによる研修を実施中である。（講師4名、研修生15名）

尚現在昭和62年度から始まる桐生織の第二次振興計画を新しい視点から策定しており、本事業を次年度以降も続けていく。

- ④ 革新織機の導入

組合にFA化委員会を新しく置いた。（FA＝ファクトリーオートメーション）当面の目標を「直織織機」の導入研究におき仕事を進めている。産地間競争に勝抜くためにも設備の近代化はとりわけ重要と考えている。

- ⑤ 組合マーケティング強化対策事業

和装市場の動向、消費者ニーズを把握しその結果をふまえて組合員の経営に役立てるものである。

委員会をおき学識経験者、業界有識者（流通、報道）、内部役員らが委員となり、アンケート調査をもとに鋭意実施中であり、追って結果がでるので、報告会を行うとともに体質強化にむすびつけていく。

- 今後の課題

- ① 情報収集の適切な把握と伝達指導。（個々の製品企画への寄与）

- ② 新設備の導入とこれにマッチした製品企画づくり。

- ③ 各種事業の見直しと効果的な展開。

- ④ 後継者、青年層の育成、人材養成。

（この点では、地場産業振興センターとの連携、活用をはかる。）

- ⑤ 組合販売活動のより活性化。

- ⑥ 産地組合の一本化による情報、技術等の交流による相乗効果の拡大。

2. 桐生織物協同組合

- 商品、消費者ニーズの変化について

輸出向けのメタル入り紋変り織物には昨年に引続き根強い需要があり、前年を上廻る引合いによりトライアルオーダー等の要求に答えているが、異常な円

高影響により、バルクオーダーの成約が大巾に遅れ、きびしい状況下にある。

○ 状況、事業概要

為替レートが150円台を記録する等円高に終始した1年であり、加えて対米繊維規制枠問題に遭遇したにもかかわらず、欧米地区を始め東南アジア地区向け等が、円高影響できびしい採算乍ら、産地商品が時流に乗り欲求が増大したことから、幸運にも前年対比で38%の増加をみて、62億8千9百万円の輸出額を獲得することができた。

内需向け織物は、産地景況に大きく影響する婦人服地織物が、概ね7月頃まで比較的順調に推移したのであるが、商社問屋段階で春夏ものの展開が遅れる等、9月以降は総じて振わずその出荷額はおよそ9%減少となり、内需全体の出荷額は101億8千7百万円に止まり、4.9%の減少するところとなった。

この結果広巾織物業界における総出荷額は、164億7千6百万円強を示して前年対比1.8%の減少を示したが、出荷数量では5.7%の増加をみており驚異的な円高影響により、販売単価のダウンを余儀なくされる結果となった。

○ 今後の課題

輸出向け織物の商品分野の拡大と内需向けの拡大である。最近の著しい現象としては、商品の小ロット化・短サイクル化である。当産地はこれに堪えられる体質を持っているので、この体質を活用して商品分野の拡大を図ることが円高吸収の近道であり、特に各事業所が独自の目玉商品をもって、市場に挑戦し、相互に商権を尊重し合うことにより、業界の振興が図れる。

内需向け織物は、消費者ニーズ・ファッションの先取りである。猫の目のように変わる消費者ニーズ・個性化、多角化するファッション、これに対応する生産体制は当産地に厳然として存在している。要は消費者ニーズ・ファッションの先取りを業界みずからが行うことであり、他力本願であってはならない。

また、生地売り一辺倒からの脱皮として産地素材を活用した完成商品として、更に付加価値を高めるべくこの分野を開拓することも、繊維総合産地として今後の大きな課題であろう。

3. 桐生織物産地元売協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

商品的変化としては販売組織の多様化に伴って商品構成が小量、多岐に涉っており、色柄形等においても各産地の特徴を活した製品が評価されている。

○ 状況、事業概要

昨年一年間は円高に悩まされて市場は低迷の一途を辿り、その結果、当組合における取扱高は前年対比 88%弱と激減した。勿論この中にはいくつかの企業間の格差がみられるが概してもう之以上引下れない限界にきている。

○ 今後の課題

大きな問題としては、和装ばなれと言うことであるが、世代のニーズに応え得る商品形成を行うのに最もよい立場にある桐生産地であるので、従来の惰性に甘んずることなく組合員一同必死になって、尚一層新商品の開発に向って研究努力し企業の挽回に努力すべきである。今我々流通機構を根底から覆えそうとする売上税の法案が浮上し実施されようとしているが、当繊維業界にとって死活問題であり絶対阻止しなければならない。

4. 両毛輸出織物整染工業組合

○ 状況、事業概要

当組合において、年当初円高影響による減少を懸念していたが、1月～9月までは前年同期を上廻る加工実績を確保した。

併し10月に至り、輸出向けが急激な減少となり前年同期に比し、50%を割る大巾な減退となった。

内需にあっても輸出に歩調を合わせるように同時期から減少を示した、当組合における本年の実績は、前半堅調であったため後半の減少をカバーしたので総体的には、まずまずで推移した。

当組合の事業実態各表に示す実績数がすべて減少となっているが、これは、事業を廃業した企業1社、倒産企業1社があったための減少である。

○ 今後の課題

当組合業界における最近の受注状況は、多品種、小ロット、期近出荷の受注が多くなっている。このような情勢下にあって当業界の今後の課題は、下記の対策急務な要点である。

1. 適正加工賃の確立
2. メリットある加工技術の開発
3. 加工設備の充実
4. 下請的概念の払拭

5. 労務雇用対策の確立

5. 桐生染色協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

消費者趣向のファッション化、個性化が定着し、このため染色加工素材が多様化し小ロット、短サイクルが一般化した。

○ 状況、事業概要

輸出関係では円高、韓国、台湾等との競合によりアメリカ始め、中近東、その他仕向地を問わず全般的に低調で加工数量は横ばいないし若干減少した。

内需関係も購買力が低迷、市況が冴えず加工数量は減少気味であった。

○ 今後の課題

- (1) 今後も業界は円高、近隣諸国との競合等による輸出のきびしさ、内需市況の低迷が予測される。
- (2) 染色素材の多様化、高度の加工技術が要求されているため設備の更新、従業員の高齢化対策、後継者の育成等行なわなければならない。
- (3) 今後の方針としては両毛地区の染色工場として特徴のある仕事を行い、消費者ニーズに適応した製品づくりの染色に努力したいと考えている。

6. 桐生繊維製品協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

消費者ニーズの個性化、多様化、小ロット短サイクル化は、益々進んでおる中で更に高感度な値ごろ商品によるグレードアップが市場で要求されて来ております。主力のブラウスにおいては、デザインの的に特にペプラムスタイル、アシメリーな打合せ商品が多く目立ちました。

○ 状況、事業概要

吾々の業界においては、円高基調による影響は為替変動等による直接的な事はありませんが、輸入が拡大し、国内生産市場の質的に変化があり安いだけでは売れない時代で流通構造の変化と共に、国内生産市場が益々狭く現況でも20%方減少しております。この様な環境下での受注条件との兼合いから、生産効率が悪く収益性がいずこも下降を辿っておる状況だったかと思われれます。

○ 今後の課題

円高と税制改革等による経済と産業の仕組が大きく変革する中で、業界自ら

の対応は今後量から質への経営展開を先づはかり、現況をとらえたきびしい条件に対し生産性の向上策とコストダウンの研究、そして技術力の強化による高品質な商品造り、又新たな市場開拓と相俟って新しい分野の商品開発による直販の道を築くことが産地と企業共々力強く生き残れる事かと存じます。

7. 桐生服地協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

レーヨンから天然繊維志向となり、ジャガードからドビー調のものに変わった。

○ 状況、事業概要

昭和61年前半までは、当産地の得意とするレーヨン素材のジャガード物が、D、Cブランド向けを主として好調であったが、これが頭打ち傾向となり、同時にレーヨン物が一部物性的な欠点も表面化して来たために、大体の流れとしては、天然繊維志向で、ジャガード調からドビー調へ変化し、急激な円高不況ムードによって、後半は、一転不況の中に越年した。例年3月が秋物の受注の最盛期を迎えるわけであるが、本年はあまり期待が持てないのではないかと思われている。

○ 今後の課題

新商品の開発を最重点として、益々、多品種、少量、短サイクルの時代を迎え、これを調整するべき問屋がその機能を果していないので、そのリスクは全部産地にしわよせされているのが現状である。今後、売上税新設等を勘案した時に流通段階の短縮を研究すべきと思う。

8. 桐生婦人子供服製造協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

消費者ニーズの高級品本物志向多様化、個性化等ファッション性の高いものが一般に好まれ売れている。

○ 状況、事業概要

円高の急速な進展とその定着、内外の経済事情の変化によりきわめて厳しい経営環境の中で、各企業共比較的安定した受注量を確保することが出来たが、多品種少量低価格と受注条件は厳しく、生産効率収益性の改善に苦慮した一年であった。

○ 今後の課題

当業界に於いても、急激な円高により後進国での低価格の商品輸入が増大す

る傾向にある為、益々厳して経営状況に追い込まれ転業廃業に進む企業もある。これに対応すべく企業団体のより一層の合理化、省力化、自動機化を図り短納期、小ロット、多品種、生産体制を整え高感度、低価格の商品造りの出来る企業作りが必要である。

9. 桐生織物整経協同組合

○ 状況、事業概要

予想外の急激な円高デフレ（不況）にて、輸出産業界は全面的に採算割れを生じ、繊維業界も深刻な状態におかれ、織物業者も付加価値の高い新商品の開発に取り組んでおり、当整経業界も多品種、少量生産に答え技術の向上と経営の合理化を進め自力で進路を切りひらいてまいりました。

○ 今後の課題

輸出産業界のあおりを受けて、国内需要もデフレ効果がみられる事などから大幅に悪化し停滞感が一層強まり、整経業界も前途多難にて、織物の技術革新にそなえて、企業の活性化を計り、活力をアップし、この不況をのり越えたい。

10. 桐生意匠協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

昨年は全体に大差のない状況の中で、組合の総売上の中で暫増しているのは組合員6社のコンピューター導入にともなうハンチデータ算出の料金が入り、その分だけが増えたもので、実際には仕事量は増えていない現状である。

○ 状況、事業概要

円高に依る影響は、61年上半期は受注が特に減ずることもなくコスト面では輸出織業者はやゝ厳しいところであったが、後半期において新規織物の試織等で例年通りの仕事量の推移であった。輸出意匠は、やゝ仕事が減少していた様である。内地帯については、大正ロマン及びニューきもの等の点から仕事量は暫増であった。

○ 今後の課題

円高に依る受注減等62年に入って輸出織物は、厳しい年を迎えたことになる。まさに試織工場が桐生なら、韓国が生産工場の様にはバイヤーは考えており、新しい架物（織物の機拵）によるサンプルの開発が望まれ、桐生産地でしか織れないというものを開発しなければならない。

内需拡大というが輸出関連企業の休業廃業等、国内の景気はデフレ傾向にあり繊維品の購売力は今後　うなるか不安である。尚開発途上国である韓国、ホンコン、台湾等からの繊維品の輸入増に対して絹等を使用した高級品への転換を計らなければならないと思う。

11. 桐生紋紙協同組合

○ 状況、事業概要

輸出物に関しては、円高と云う非常に厳しい年ではあったが受注量は、昨年比微増であった。一方売価格の協力的ダウンに依り業者の収益は減少傾向である。

内需物の出荷額は、昨年比114%と増加した。

桐生産地向に於ては、横バイ状況であったが、他産地（山梨を除く）の受注量の増加があった。

○ 今後の課題

数年来の構造改善に依るコンピューター化も一段落したと思われる。円高不況色の強い厳しい業界の中で、受注量の減少が、業者間の受注に関する摩擦の要因になるので課題の一つでもある。

12. 桐生刺繍商工業協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

刺繍はプリント物と裏腹にあり、多品種少量生産となりますと刺繍物が多くなります。しかし毎年5月迄は非常に忙しく、連休明けと共に暇になり波が多く困っております。

○ 状況、事業概要

61年度は全般的に低調でしたが、組合員の仕事はやゝ良かったと思う、非常に品種が多くなり、1品種で1年中と言う事は現在では考えられず、変るたびに準備にとられ能率が悪く仕事量があがらず大変です。

ハンカチーフは量が決ってきたので一定している。ブラウス系はプリントが少なくなって来たので刺繍物はやゝ良くなってきた。他、雑貨系統もやゝ良い様です。婚礼関係はやゝ下降線をたどっております。やはり婚礼人口によると思われる事、得意先に在庫が多い事と思われます。

○ 今後の課題

(1) 技術者養成

(2) 市場調査

以上2件が現在まったく出来ていませんので、なんとかしなくては思
っております。

13. 群馬県綿スフ織物工業組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

(1) 桐生……商品の多角化で新商品開発に努力しているが、輸出は円高、内
需は円高不況で益々小ロット化、受注は低迷、売上税問題もか
らむ。

(2) 白十字……商品の小ロット化、多品種化、対応成績をあげている。

(3) 中川産業…ガラス繊維業界は競争激化しつつあり、これに対する方策を検
討中。

○ 状況、事業概要

(1) 桐生……極端な円高で、輸出向け、内需向け共、低調に推移。

(2) 白十字……商品の多品種化をいち早く図り、売上げは増加。

(3) 中川産業…全体的受注減と価格競争激化に対応できるコストの引下げと品
質水準の引上げによる競争力強化を図っているが、IC用クロ
スの需要が減少し、62年4月にはゼロとなる状態が経営の足を
引っ張っている。

○ 今後の課題

(1) 桐生……円高吸収の新商品開発による海外市場確保と内需拡大。

(2) 白十字……更に商品分野の拡大とコストダウン。

(3) 中川産業…品質向上とコストダウン、更に商品分野の拡大。

14. 両毛輸出スカーフ協同組合

○ 状況、事業概要

60年に引続き、低調なまま、推移してしまった。

低価格商品の為、円高の影響が大きく値下げ要求に抗し切れず、採算割れ寸
前にある。

しかし、当商品は、当地のみで生産されるものなので中近東方面へも最少限
の輸出はされている。

15. 東日本編レース工業組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

インテリア関係

衣料関係

1. 高級品指向

1. 低調

2. 高級仕立カーテン要望

2. ストール、マフラー受注減

3. 無地流行

3. 高級指向

○ 状況、事業概要

引続き受注低調ながら新商品高級品は良く売れた。

問屋の競争激しく、値引き要望多し。

16. 桐生金銀系協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

円高等の影響により大変厳しい状況化にあります。これらを打破して行くためには、関連業界とさらに連絡を密にし新しい商品の開発が急務と思われる。

17. 桐生糸商組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

多品種、少ロット化が激しく、対応に苦慮している。

合繊ばなれの傾向が多い。和装関係は、需要低滞するも、大正ロマン調でエステルが伸び一部安定感あり。

○ 状況、事業概要

円高の影響で輸出、内需共に低調で糸の動きが悪く苦戦の1年であった。

○ 今後の課題

他産地では出来ない、超付加価値商品の開発をすべきである。

量産物については、採算負けしない、企業努力が必要である。

18. 桐生織物買継商友会

○ 商品、消費者ニーズの変化について

昨年同様消費者ニーズの多様化が進み、必然と、産地業者も商品構成が複雑化されて来てポイントの絞り込みに苦慮している。変化といえば、1部マスコミの宣伝効果から、品質は別にしても、色柄が、時代に適して安価で着られることが要求され必須条件であった。

○ 状況、事業概要

会員の入退があり結果的に数字も前年対比、変動があり、幸いに50%近い伸びをみる事が出来た。

亦従来の商品より二次製品の荷動きが消費者ニーズの多様化と共に増え、それとマスコミの力を借りた大正ロマン調の細帯と二部式着物が、著しく活状を呈し、産地でも近來まれなヒット商品の誕生で湧き62年度も期待されること大である。

○ 今後の課題

ますます多様化される消費者ニーズの把握と適した商品作り、会員相互の情報交換と新商品の共同開発と交流販売で、変化に対応出来る様企業努力して尚生産業者とのハードスクラムを一層強固にして内容の伴う業界発展の為に鋭意努力して行く。

桐生市纖維振興協會會員名簿

団 体 名	代 表 者	所 在 地	電 話
桐生内地織物協	佐藤富三	桐生市永楽町5-1	43-7171
桐生織物協	金子匡男	" "	32-2511
桐生商工会議所纖維部会	木村一蔵	" 織姫町2-5	45-1201
桐生織物商業協	木村市雄	" 永楽町6-6	22-7567
桐生織物産地元売協	木村一蔵	" "	22-9120
両毛輸出織物整染(工)	朝倉融	" "	22-2775
桐生染色協	塚本祐平	" "	22-9661
桐生纖維製品協	栗原守男	" 仲町三丁目15-20	43-5115
桐生服地協	小林松	" 永楽町5-1	43-2511
桐生糸商組合	川村佐助	" 仲町三丁目15-6	44-4171
東日本編レース(工)	黒沢岩雄	" 永楽町6-6	22-3847
桐生撚糸(工)	田中堯	" 稲荷町4-29	44-9431
桐生婦人子供服製造協	中島静雄	" 川内町一丁目47-14	65-7143
両毛輸出スカーフ協	古谷恒	" 浜松町二丁目8-20	44-1771
桐生織物整経協	高久勇雄	" 永楽町6-6	22-9184
桐生意匠協	柘植洋二	" "	22-7088
桐生紋紙協	高橋金五郎	" "	22-5854
東毛ジャカード刺繍協	朝倉健太郎	" 新宿三丁目7-34	43-1166
桐生刺繍畜工業協	栗原優介	" 永楽町6-6	22-7919
桐生金銀糸協	今西洋右	" 新宿三丁目4-57	22-8539
桐生織物買継商友会	小沢圭正	" 広沢町二丁目3125-53	54-0030
群馬県綿スフ織物(工)	松島武雄	" 永楽町5-1	43-2511